

第32期目録委員会記録 No.12

第12回委員会

日時：2010年4月17日（土）14時～17時10分

場所：日本図書館協会5階会議室

出席：原井委員長、東、木下、酒見、高橋、鴫田、平田、古川、横山、渡邊  
<事務局>磯部

[配付資料]

- 1.2009年度目録委員会報告書（案）（2ページ-A4、原井委員長）
- 2.全国図書館大会分科会について（2010.4.17現在）（1ページ-A4、渡邊委員）
- 3.目録の作成と提供に関する調査（4ページ-A4調査用紙2種、酒見委員、木下委員）
- 4.目録の作成と提供に関する調査（4ページ-A4回答例5種、東委員、木下委員）
- 5.国立国会図書館における統一タイトルの運用について（5ページ-A4、横山委員）
- 6.国文学研究資料館日本古典籍総合目録における統一タイトルについて  
（4ページ-A4、1ページ-B4、国文学研究資料館増井氏）
- 7.統合古典籍データベース著作データ作成マニュアル  
（22ページ-A4、国文学研究資料館増井氏）
- 8.書誌階層と統一タイトルに関する改訂の構想私案（3ページ-A4、古川委員）
- 9.書誌階層についてのメモ（2010.4未完）（2ページ-A4、渡邊委員）
- 10.NCR改訂の方向性について（検討メモ 平成22年4月17日改訂）  
（5ページ-A4、原井委員長）
- 11.記述総則に関する資料（古川委員）
- 12.内容細目に関する資料（国会図書館）2篇（古川委員）
- 13.第32期目録委員会記録 No.10（3ページ-A4、事務局）
- 14.第32期目録委員会記録 No.11（案）（3ページ-A4、事務局）

[報告事項ほか]

1. 議事録の確認

第11回記録案（資料14）を確認した。

2. 委員の異動・補充について

- ・平田委員が横浜国立大学に人事異動となったが、目録委員は継続する。NIIからは平田委員の後任として高橋菜奈子氏が委員会に加わる。
- ・公共図書館からの委員補充に関しては、東京都立中央図書館の関口栄一管理部長から検討中であるとの回答があったと、原井委員長から報告があった。

3. 2009年度目録委員会報告案について

資料について原井委員長より説明があり、了承された。

## [検討事項]

### 1. 全国図書館大会分科会について

渡邊委員から、資料（資料2）について説明があった。場所・時間が未定のため、仮置き  
の予定で検討を進めるが、状況が分かり次第メールにて渡邊委員から連絡することとなっ  
た。下記の事項を確認した。

- ・発表は 全体的状況、IFLAの諸活動（渡邊委員、25分）、 国際目録原則（横山委員、  
30分） RDA（古川委員、35分） 目録委員会活動とNCRの方針（原井委員長、40分）  
の4本とする。大会原稿の確認スケジュールは事務局締め切り等の詳細が判明し次第、  
詳細化する。
- ・司会者は当座、原井委員長とする。
- ・発表者以外の委員は人数の許す限り運営スタッフとして登録する。運営スタッフは当  
日早めに会場に向かうこととし、事前の打ち合わせや手伝いをする。
- ・現段階では全員参加とする。万が一予定に変更が生じ参加できなくなった場合は速や  
かにメールで連絡をする。
- ・NCRの改訂方針について、図書館大会までに固まらなかった事項は課題として挙げる  
にとどめる。

### 2. 目録に関する調査について

東委員、木下委員から、公共図書館・大学図書館職員に試行的に回答いただいた結果に  
ついて、回答例（資料4）に沿って説明があり、調査票改訂の要非について検討した。調査  
票の修正点は次のとおりとなった。

- ・回答者の氏名欄に所属を記録する欄を設ける。
- ・「典拠コントロール」に関する簡単な注釈をつける。
- ・例示の仕方を統一する。
- ・NACSIS-CAT等をシステムとして利用するのか、データを利用するのか分かりづらいた  
め、「～データを利用」と補う。

修正点を反映し、メールにて確認し次第、印刷作業を進めることとなった。調査票への  
答え方等について分かりづらい点は、HPにQ&Aを掲載することにより対処する。

アンケート実施の趣旨、回答方法、依頼先の選定基準等を骨子とする依頼文案は原井委  
員長が作成し、4/19からの週にメールにて確認する。

### 3. NCRの改訂について

今回は大きく統一タイトルと、書誌階層について検討した。

#### 3-1.統一タイトル

国立国会図書館における統一タイトルの扱いについて資料5に基づき横山委員から説明  
があった。同館では統一タイトル標目と、統一タイトル件名が別個に維持管理されており  
相互に調整が取れていない、様々なタイトルの形から検索できることを主眼に置いている  
ことが判明した。

国文学研究資料館の状況について、増井氏の資料に基づき原井委員長が説明した。

古川委員より資料9の統一タイトル部分について説明があった。主な意見は下記のとおりである。

- ・タイトル標目の典拠コントロールの範囲を確定すること（ひいては「統一タイトル」という用語の存廃の決定）が、改訂の核心である。
- ・タイトルと著作をセットで表すことはどの範囲の資料に有効か。大部分の資料は1著作1体現形のため必要ない。またRDAと同じ方向に持っていくのは厳しい。
- ・同一タイトル・別著作の識別は、FRBR準拠のための必須の条件である。
- ・現行NCR 26.2.1イ)に著者名とタイトルから成る複合形に関する規定があるが、あまり意識されていない。このケースをどのように扱うかが改訂のポイントとなる。
- ・著作の識別には何を第一の著者とするか決める必要がある。しかし、目録カード時代とは違い、データを何で書き始めるかを決めるのはあまり意味がない。基本記入/非基本記入の議論にもっていくのはよろしくない。
- ・著作についてはなるべく識別できるようにする。一方で、表現形の識別はオプション扱いとするのが妥当だろう。

以上をふまえ、著作の識別のために、統一タイトルから名称を改め、著作に対する優先アクセスポイント（仮称）を定義することとした。著者や付加事項を必要に応じて加えることも、形を簡略化することも可能とする方向だが、データの作り方まで、どの程度目録規則で決める必要があるか議論を要する。

### 3-2.書誌階層について

古川委員、渡邊委員より資料に基づいて説明があった。議論の結果、決定した事項は下記のとおりである。

- ・書誌階層の考え方は維持する。その上で、書誌階層がRDAの規定する多様な関連relationshipsの一種であることを確認して、関連全体の規定へ拡張する方向で改訂する。
- ・基礎レベルの設定は必要であるが、厳密にはルール規定できない。タイトルと思えないようなものをタイトルとするようなルール作りはしない。
- ・現行NCRで諸概念の整理が不十分なところは改める。
- ・構成書誌単位の記述規則を明確化する。

次回は主題標目、FRADとFRSAD、関連指示子に関する方針について議論する。

### 次回以降の委員会の予定

5月22日（土）

6月26日（土）

7月31日（土）

9月4日（土）